

東京方式

少人数・習熟度別指導 ガイドライン（改訂版）

《中学校 英語》

本ガイドラインは、中学校英語科において、各学校が効果的な少人数・習熟度別指導を実施するために、習熟の程度に応じた学習指導等に関わる指導方法・指導体制及び校内での推進体制等をまとめたものです。

令和2年9月
東京都教育委員会

I はじめに

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編」では、授業では依然として、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないことや「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと、読んだことについて意見を述べ合うなど、複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないことなどの課題が示されている。また、①各学校段階の学びを接続させるとともに、②「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から、小学校の学びとの接続を意識しながら各言語の目標として英語の目標が設定されている。各学校においては、言語材料と言語活動、言語の働き等を効果的に関連付け、総合的に組み合わせて指導するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するため、学習過程を繰り返し経るような指導の改善・充実が求められている。

このようなことを踏まえ、中学校の英語の指導において、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力をより一層効果的に育み、生徒のもつ可能性を最大限に広げるためには、生徒一人一人の十分な学習活動を確保し、個に応じた指導の充実を図ることが必要である。

そこで、東京都教育委員会では、効果的な少人数・習熟度別指導を全般的に展開できるようにするため、「東京方式少人数・習熟度別指導ガイドラン（改訂版）《中学校 英語》」を新たに策定することとした。

II 少人数・習熟度別指導の推進について

少人数指導とは、意図的に学級の人数よりも少ない人数で編成した学習集団による指導のことである。一方、習熟度別指導とは、学習を進めていく過程で、生徒に理解や習熟の程度に差が見られるようになった場合、その習熟の程度等に応じて編成した学習集団による指導のことである。

本ガイドラインに基づいた指導は、「Ⅲ 少人数・習熟度別指導の目的及び実施における必須事項」で詳しく述べるように、習熟の程度を考慮して編成した学習集団又は習熟度別に編成した学習集団による少人数指導を行うこととする。

1 生徒数が25人以下の編成による少人数指導の推進

少人数指導の充実により、生徒一人一人の発話量を増やし、実際に英語を使用してコミュニケーションを図る活動を充実させる。

- 25人以下の少人数学習集団による指導を推進する。
- 生徒一人一人の活動が行いやすいという利点から、ペアワークやグループワークなどの学習形態を適宜取り入れながら、効果的な授業が展開できるようにする。

英語によるコミュニケーション能力を育成するためには、生徒の発話量を増やし、生徒が繰り返し練習を積み重ねることができるなど、生徒一人一人が実際に英語を使用して活動する機会を十分に確保することが重要である。なお、教員一人が1単位時間の授業において、生徒一人一人と直接、英語で会話したり、生徒一人一人の発話の状況を把握し、全ての生徒に必ず1回の個別指導を行ったりするためには、25人以下の編成が望ましい。また、少人数学習集団による指導を推進する際は、個々の生徒に応じた課題を設定するなど、個に応じた指導を工夫することが大切である。

2 習熟度別指導の推進

習熟度別指導を拡充させることで、「補充的な学習」や「発展的な学習」などの学習活動を取り入れた個に応じた指導を充実させる。

- 習熟の遅い生徒に対しては、生徒が安心して質問したり、じっくり取り組んだりすることができるよう、「補充的な学習」による指導の推進により、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 習熟の早い生徒に対しては、個性の一層の伸長を図る観点から、グローバルリーダーの育成をも視野に入れつつ、「発展的な学習」による指導を推進する。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）」では、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の4技能5領域の言語活動の指導事項が、3学年間を通して一括して示されており、生徒の習熟の程度に応じて3学年間で必要な内容を繰り返し指導するなど、教師が創意工夫をしやすい構成となっている。

Ⅲ 少人数・習熟度別指導の目的及び実施における必須事項

1 少人数・習熟度別指導の目的

- 英語が“使える”中学校卒業生
- 一定水準の学力の達成と、特に秀でた生徒の英語力の伸長
- 外国の人々に積極的に話し掛け、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

中学校英語の少人数・習熟度別指導は、4技能5領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）を統合的に活用できるコミュニケーション能力を確実に身に付けさせ、外国の人々に積極的に話し掛け、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるようにすることを目的とする。また、特に秀でた生徒については、高い英語力と優れたコミュニケーション能力を育成していく。

2 少人数・習熟度別指導の実施における必須事項

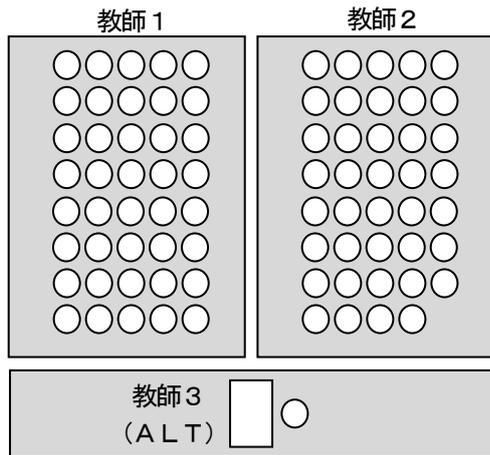
(1) 指導方法・指導体制等について

- ① 生徒の理解や習熟の程度等を的確に把握する。
- ② 生徒の理解や習熟の程度等に応じて英語力を育むための、効果的な学習集団を編成する。
- ③ 必要に応じて、既習事項の学び直しや反復学習などによる「補充的な学習」による指導を行う。
- ④ 習熟が早く、更に学習を進めていきたい生徒には、「発展的な学習」による指導を行う。
- ⑤ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。

① 生徒の理解や習熟の程度等を的確に把握する。

- 筆記テストのみならず、面接・スピーチ・エッセイ等のパフォーマンス評価、活動の観察等、様々な評価方法の中からその場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択して実施する。
- 評価の結果を生徒にフィードバックする際には、何が身に付いていないのか、次にどのような学習をすればよいのかなど、課題を具体的に示して指導する。
- 把握した生徒の理解や習熟の程度に応じて、絶えず指導を見直し、授業改善を進めるようにする。

＜面接形式のパフォーマンステスト（「話すこと[やり取り]」）の実施例＞



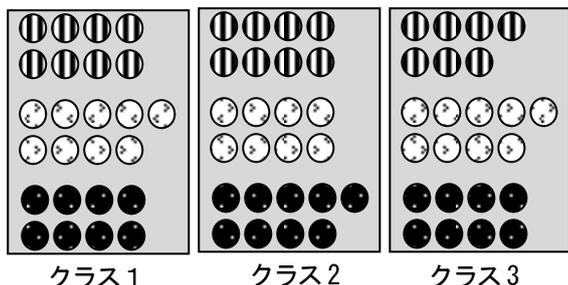
- 《特徴》
- 面接形式のパフォーマンステストを実施する際は、二人の教員が生徒の学習指導を行い、別教室等で一人の教員がパフォーマンステストを行う等の形態の工夫を行う。
 - 生徒個別の話す力について達成度を測ることができる。

② 生徒の理解や習熟の程度等に応じて英語力を育むための、効果的な学習集団を編成する。

- 少人数・習熟度別指導の学習集団については、以下の四つの例を基に、各学年段階の学習内容の特性や生徒の習熟の状況等に応じて、3年間を見通した計画的な編成を行う。

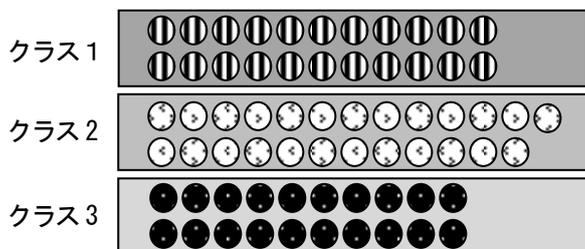
【2学級3展開の例】 生徒の習熟の程度〔早い…ⓐ 中間…ⓑ 遅い…ⓒ〕

例1) 習熟の程度を考慮した少人数学習集団編成



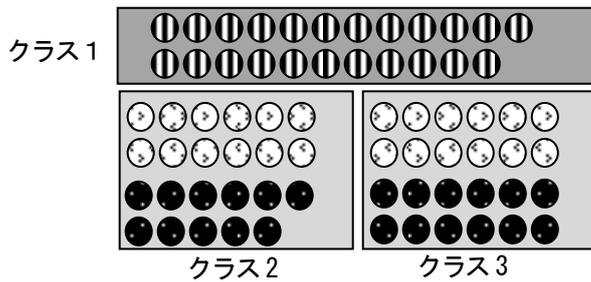
- 《特徴》
- 生徒同士の間関係上の課題等を考慮しつつ、英語の学習について、習熟の程度が多様な生徒が、概ね均等に混在する三つの学習集団を編成する。
 - リーダーが機能したグループワークによる生き生きとした言語活動により、個々の生徒の発話量を増やし、コミュニケーション能力を効果的に向上させることができる。

例2) 習熟度別による少人数学習集団編成 ①



- 《特徴》
- 「発展コース」、「基礎コース」、「補充コース」など習熟の程度に応じた学習集団を編成する。
 - 学力差が生じやすい傾向がある語彙や文法知識の習得については、立ち戻る指導など個に応じた指導の充実により、効果的につまずきの解消を図ることができる。
 - 習熟が早く、更に学習を進めていきたい生徒には、「発展的な学習」による指導を効果的に行うことができる。

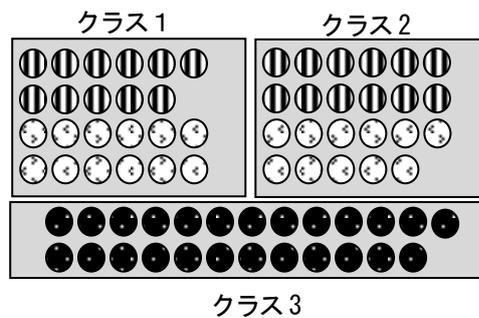
例3) 習熟度別による少人数学習集団編成 ②



《特徴》

- 「発展コース」など、習熟が早く、更に学習を進めていきたい生徒による学習集団を編成する。
- それ以外の生徒については、生徒同士の間関係上の課題等を考慮しつつ、英語の学習について、習熟の程度が多様な生徒が、概ね均等に混在する二つの学習集団を編成する。
- 習熟が早い生徒について、「発展的な学習」による指導を効果的に行うことができる。

例4) 習熟度別による少人数学習集団編成 ③



《特徴》

- 「補充コース」など、習熟の遅い生徒による学習集団を編成する。
- それ以外の生徒については、生徒同士の間関係上の課題等を考慮しつつ、英語の学習について、習熟の程度が多様な生徒が、概ね均等に混在する二つの学習集団を編成する。
- 習熟の遅い生徒について、立ち戻る指導など個に応じた指導の充実により、効果的につまずきの解消を図ることができる。

③ 必要に応じて、既習事項の学び直しや反復学習などによる「補充的な学習」による指導を行う。

- 生徒が新しい文法事項を学ぶ際には、関連する既習の語彙や文法を振り返るなど、「補充的な学習」による指導を取り入れ、生徒のつまずきを未然に防止する。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導を行う際には、学習に遅れやつまずきのある生徒に対し、関連する既習事項を確認する課題を設定するなど、「補充的な学習」による指導を行う。
- 習熟の程度が多様な生徒が混在する学習集団においては、学習のねらいや内容の特性に基づき、習熟の程度に応じた課題設定を行うなど、指導方法を工夫する。

④ 習熟が早く、更に学習を進めていきたい生徒には、「発展的な学習」による指導を行う。

- 例えば、「読むこと」、「書くこと」について指導する場面では、文構造の理解の早い生徒に対して、細部にわたって読み取らせる、書かせる量を増やす、更に別の課題を用意するなど、学習指導要領に示す内容の理解をより深める学習を行ったり、更に進んだ内容についての学習を行ったりする「発展的な学習」による指導を行う。
- 習熟の程度が多様な生徒が混在する学習集団においては、学習のねらいや内容の特性に基づき、習熟の程度に応じた課題設定を行うなど指導方法を工夫する。
- 高い英語力はもとより、相手の意図や考えを的確に理解するとともに、自らの意見を躊躇することなく論理的に主張できる優れたコミュニケーション能力を育成していく。

⑤ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。

- 外国の文化や考え方について受け身的に学ぶだけでなく、日本の文化や日本人の考え方を積極的に外国の人々に知らせるといった観点から指導内容を工夫し、文化や価値の多様性に気付かせ、異文化を受容する態度を育てる。

(2) 校内の推進体制等について

- ① 校内に少人数・習熟度別指導を推進するための委員会等の組織を設置する。
- ② 校内推進計画（基本方針、実施計画等）を作成する。
- ③ 生徒及び保護者へ説明する機会や意見・要望等を聴取する機会を設ける。

① 校内に少人数・習熟度別指導を推進するための委員会等の組織を設置する。

- ・ 児童・生徒の学習状況に加え、学習集団の特性等に応じて、指導方法を継続的に工夫・改善、共有し、児童・生徒の学ぶ意欲に応える。
- ・ 児童・生徒に関する情報を教員間で共有し、指導に生かす。
- ・ 推進のための責任者を明確にする。

② 校内推進計画（基本方針、実施計画等）を作成する。

- ・ 英語によるコミュニケーション能力を育成するとともに、国際協調の精神等を醸成するための、学校の基本方針を策定する。
- ・ 英語における指導計画、評価計画や学習集団の編成計画、その他の教育活動における指導計画や評価計画等をまとめた実施計画を作成する。
- ・ 生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、学年ごとの学習到達目標を、学習指導要領を踏まえて各学校が設定し、その実現に向けて各単元・授業を組み立てるようにする。

③ 生徒及び保護者へ説明する機会や意見・要望等を聴取する機会を設ける。

- ・ 授業に関する児童・生徒へのアンケートや授業参観後に保護者等を対象としたアンケート等を実施し、少人数・習熟度別指導についての成果や課題について意見を収集し、指導の改善に生かす。
- ・ 保護者等を対象とした説明会や定期的な授業公開を実施するなど、学校の取組についての理解啓発の機会を、年間を通して計画的に設定する。

少人数・習熟度別指導ガイドライン(改訂版)《中学校 英語》 実施状況チェックリスト(例)

	必須事項	確認事項	チェック欄
指導方法・指導体制等に関する事項	① 習熟度の把握	○4技能5領域それぞれの習熟の程度について、パフォーマンステスト等も含めた多様な方法を用いて情報収集が できているか。	
		○生徒の習熟度を把握し、個に応じた指導に活用できる基 礎資料を作成しているか。	
	② 学習集団の編成	○学習内容の特性や生徒の習熟の状況等に応じて、少人 数・習熟度別指導の学習集団が編成されているか。	
	③ 補充的な指導	○必要に応じて、既習事項の学び直しや反復学習等を行っ ているか。	
	④ 発展的な指導	○習熟が早く、更に学習を進めていきたい生徒に、発展的 な学習に取り組ませているか。	
	⑤ 教材・教具等の活用	○学習集団の特性に応じて教材・教具等を工夫して活用し ているか。	
	⑥ その他	○特別な支援を要する生徒に対して、生徒の特性に応じた 指導内容・方法を工夫しているか。	
校内の推進体制等に関する事項	① 組織の設置	○少人数・習熟度別指導の推進の中心となる教員を指名し ているか。	
		○教科部会等を定期的に関き、指導に関する検討や情報共 有を行っているか。	
	② 校内推進計画の作成	○校内推進計画を策定しているか。 ○生徒が「外国語を使って何ができるようになるか」という 観点から、学年ごとの学習到達目標を設定し、その実現に 向けて各単元・授業を組み立てた計画になっているか。	
	③ 説明や意見・要望等	○アンケート調査等を実施する計画になっているか。	
		○説明会や公開授業を実施する計画になっているか。	
目標の設定	① 具体的な目標(達成水準) の設定	○生徒と学習到達目標を共有しているか。	
		○各種テスト、パフォーマンス評価等を用いて、目標に対 する成果・課題を、客観的に検証し、授業改善に役立て ているか。	

※その他の事項は、各学校が特色ある取組等に応じて記入する。